

## 第2章 全体構想（都市構造）

～ テーマと基本目標、将来都市構造 ～

### 1. テーマと基本目標

本市全体のまちづくりの「テーマと基本目標」を設定します。

#### 都市計画のテーマ

《 佐野市都市計画のテーマ 》

#### 『 豊かな交流文化を育む 拠点都市 佐野 』

佐野市都市計画マスタープラン 平成 21（2009）年 3 月 より

平成 30（2018）年 3 月に策定した第 2 次佐野市総合計画基本構想では、北関東 3 県の中心として「水と緑にあふれる北関東のどまん中 支え合い、人と地域が輝く交流拠点都市」という将来像を掲げています。

また、その実現に向けては、持続的な発展のために必要不可欠である「定住促進」を推進テーマとし、市の特色ある発展、賑わいがある安全で安心して暮らせるまちを目指して、地域の特性を活かしたまちづくりを推進するとしています。

《 第 2 次 佐野市都市計画のテーマ 》

#### 『 豊かな資源と人が育む 交流都市 佐野 』

人口減少、超高齢社会の到来を社会的背景として、厳しい財政状況の下で地域の活力を維持し、子育て世代や高齢者などの全ての世代の住みやすさを確保するためには、コンパクトな都市づくりが求められています。

そのために、本市の都市計画では、緑豊かな森林や清流などの「自然」をはじめ、地勢的に恵まれた交通の要衝として培われた「歴史・文化」や、農林業・鉱工業、物流、観光などの「産業」を育んだ豊かな資源を活かして、人が集まることにより、住みやすく賑わいが生まれる交流拠点のまちとして、市民と行政の連携により持続可能な都市づくりを目指すものとします。

## 都市計画の基本目標

## ① 『拠点連結（いもフライ）型都市構造』の構築

本市にふさわしいコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造のあり方として、都市機能の集積を促進する拠点（中心・地域拠点）を中心に、公共交通を利用できる暮らしやすい生活環境を形成するゾーン（生活ゾーン）、生活支援機能の集約・確保を図り集落の地域生活を支えるゾーン（集落ゾーン）などを地域特性に応じて配置し、これらを公共交通などで有機的に連携させ、全ての世代の暮らしやすさと、持続可能な都市の発展を推進します。

## ② 魅力と活力にあふれた広域交流拠点づくり

東北自動車道、北関東自動車道、国道 50 号などの広域交通利便の優位性を活かし、新たな魅力と活力に資する都市機能の集積を図るとともに、観光、スポーツ、産業・文化などを通じた国内外との様々な交流が活発に展開できるような広域的な交流拠点の形成を推進します。

## ③ 安全・安心で都市活力を支えるまちづくり

都市活力を生み出す様々な都市機能を支える基盤整備の推進、さらには、豊かさを実感できる快適な居住環境の実現と、災害に強く安全・安心な暮らしを支える都市基盤の整備を推進します。

誰もが安全・安心に移動できる都市づくりを推進するため、公共交通の利便性向上と鉄道駅や道路などのユニバーサルデザイン化を図ります。

医療・福祉、教育・文化、環境など他分野と都市計画分野が連携して、子育て世代や高齢者などの全ての世代が住みやすいまちづくりを進めます。

## ④ 水と緑が薫る快適な居住環境の創出

豊かな環境の中で、誰もが暮らしやすいと実感できる居住環境づくりを推進します。また、まちなか居住を積極的に推進する一方、既存集落地などにおける活力維持などのバランスのとれた都市づくりを推進します。

## ⑤ 豊かな自然や歴史・文化を活かした景観形成

豊かな自然や歴史・文化を活かし、市民が誇れる景観づくりと良好な居住環境づくりを推進します。

## 本市の目指す『拠点連結（いもフライ）型都市構造』

### 拠点連結型都市構造の必要性

- 人口や新規投資額の減少などの状況下においては、都市計画分野においても、効率的な都市構造の構築が不可欠です。同時に、超高齢社会の到来や環境問題への意識の高まりを受け、自動車へ適度に依存しない交通システムの構築が求められています。

### 拠点連結型都市構造の構築

- 佐野市コンパクトシティ構想で示している「コンパクト・プラス・ネットワークの骨格」を踏まえ、都市計画区域内では、本市にふさわしい都市構造として『拠点連結（いもフライ）型都市構造』を構築します。
- 都市の既存ストックを有効活用し、各拠点へ多様な都市機能（公共施設、医療・福祉、教育・文化、商業・業務など）を集約、集積します。
- 子育て世代や高齢者などの全ての世代が住みやすいまちなか居住を促進するとともに、住み慣れた農村集落での生活支援機能の集約・確保と生活環境の維持を図ります。
- 既存の公共交通（鉄道、バスなど）の活用や、市街地環境に配慮した道路網整備により、拠点を有機的に連携させ、地域特性に応じた暮らしやすさを支えるネットワークの充実を図ります。

### 拠点連結型都市構造の効果

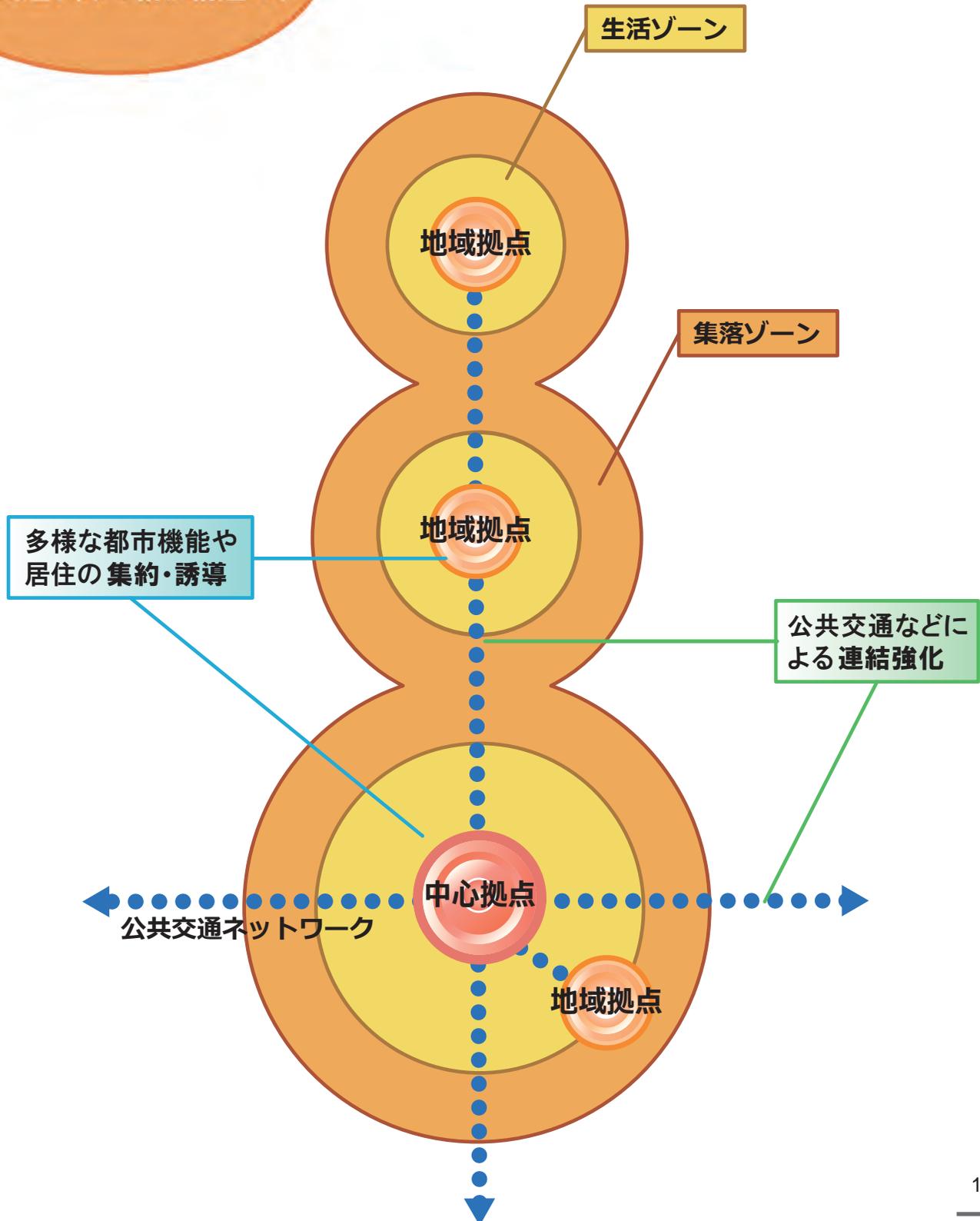
- 拠点では、“住み、働き、訪れる”人が交流することで「賑わい」が創出され、市民の暮らしやすさの向上が図られます。さらに、コミュニティの機能が維持され、市民や各種の市民組織などの活動により、防犯、防災、福祉、環境などの様々な問題に地域で対応する取組が期待されます。
- 高齢者をはじめとする交通弱者でも拠点間の移動が容易になります。さらに、自動車へ過度に依存しない都市構造となり、自然環境への負荷を抑え、持続可能な都市の発展が確保されます。

拠点連結（いもフライ）型  
都市構造のイメージ



▲いもフライ

佐野の郷土食「いもフライ」  
のように、拠点（いも）を  
公共交通（串）で結ぶ構造です



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

## 2. 将来都市構造の基本的考え方

将来都市構造は、「面」、「軸」、「拠点」の3つの視点から、本市の都市づくりにおいて基本的な方針を示します。

### （1）面の構想

#### ① 将来的な都市の規模

○目標とする都市は、10万人が快適に暮らせる規模とします。

本市の人口は微減傾向であり、土地需要の大幅な拡大は考えにくい状況にあります。

国立社会保障・人口問題研究所による平成42（2030）年の本市の人口の推計は、約10万7千人となっています。第2次佐野市総合計画でも、平成41（2029）年の人口の目標を10万7千人としています。本マスタープランにおいては、これらと同様の考え方に基づき、平成50（2038）年の目標人口を10万人とします。

したがって、本マスタープランにおける将来的な市街地の範囲については、現在ある市街地を基本に考えることとします。ただし、人口10万人を維持できる財源の確保や雇用の安定などのため、不足する産業用地については計画的な確保に努めるものとします。

また、今後の都市整備の基本的な考え方は、都市の既存ストックを活用し、日常生活の質的な向上を目指します。さらに、環境共生の見地から、今後とも市街地では優れた緑地や景観を創出します。また、優良な自然や農地の保全とともに、近年急増している再生可能エネルギー施設とも共存を図ります。



▲佐野新都市



▲佐野駅

## ② 市街地及び市街地外の役割

- 本市の特性から、市域を4つのゾーンに区分し、地域の特性の保全と活用を図りながら、優れた都市環境を創出します。

### 〈市街地を形成するゾーン〉

#### ● まちなかゾーン

- ・佐野駅・佐野市駅周辺、田沼駅・田沼行政センター周辺、葛生駅・葛生行政センター周辺、佐野新都市を本市の「まちなかゾーン」と位置づけます。これらの「まちなかゾーン」は、互いにそれぞれの役割分担を明確にした上で連携強化を図り、魅力ある市街地の形成を推進します。

#### ● 都市的土地利用ゾーン

- ・まちなかゾーン以外の既成市街地は、これまでの既存ストックを活用し、市民の暮らしやすさの向上を図る「都市的土地利用ゾーン」と位置づけます。現在の地域特性を考慮し、周辺土地利用との調和を図ります。

### 〈市街地外のゾーン〉

#### ● 田園的土地利用ゾーン

- ・豊かな自然や田園環境に囲まれながら、既存の集落地を中心に多様なライフスタイルに対応したゆとりある居住環境を提供する地域です。優良な自然や農地の保全を図り、魅力ある田園集落の形成に努めます。
- ・市街化調整区域は、本来市街化を抑制する区域であることから、これを前提としながら、開発許可制度を活用し、周辺環境と調和した土地利用を図ります。
- ・交通利便性の高いエリア等においては、産業立地や地域振興に向けた土地利用の転換を図るほか、地域の特色ある発展を目指して土地利用の調整を図ります。
- ・都市計画区域外は、地域の将来像を踏まえ、良好な居住環境を維持するために適切な土地利用を図る方策を検討します。

#### ● 自然的土地利用ゾーン

- ・良好な自然環境を有している地域であり、市民の憩いの場として、また、良好な景観を提供する場として、森林や水辺空間の利活用と自然環境の保全に努めます。

面の構想図

第1章

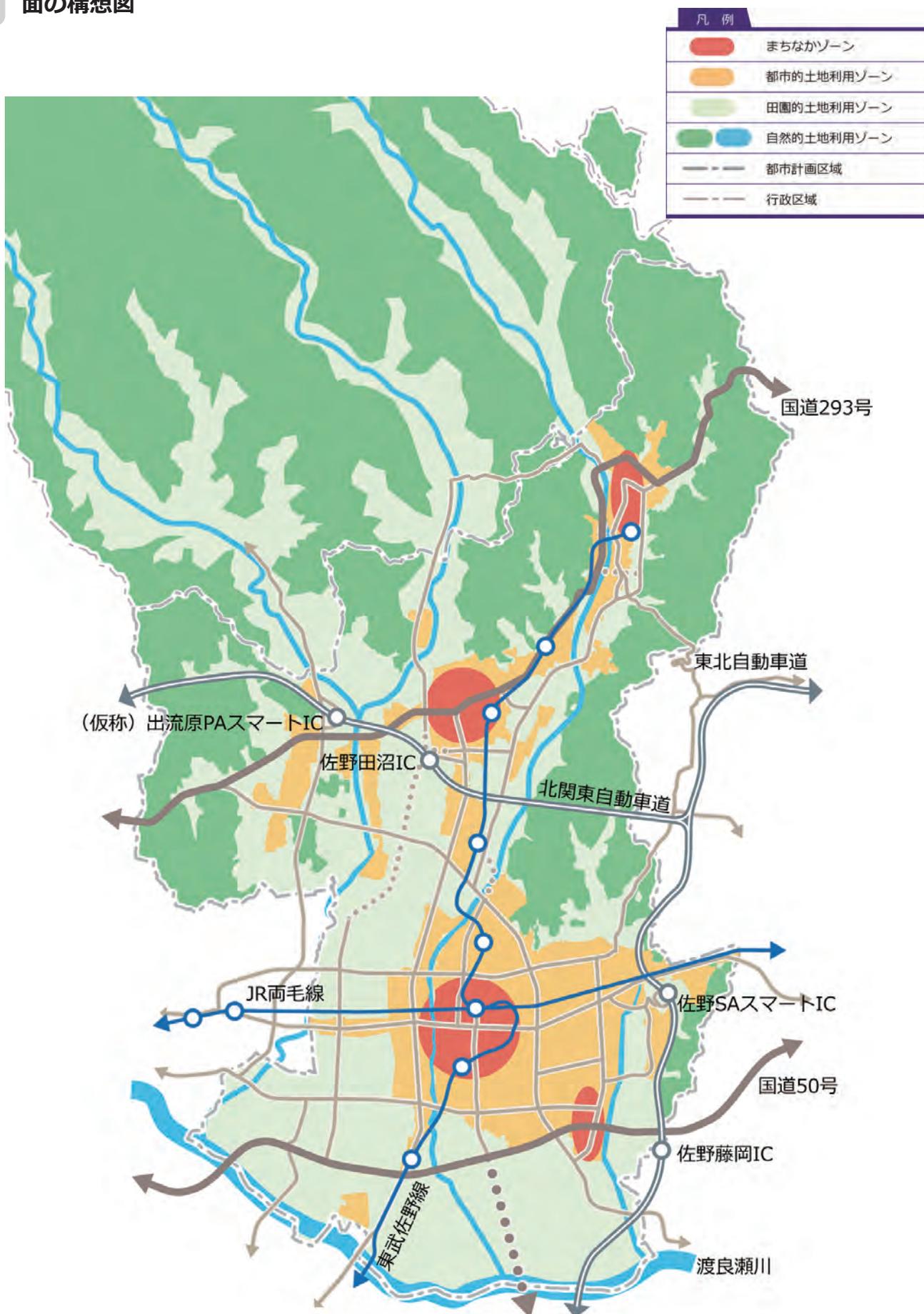
第2章

第3章

第4章

第5章

資料編



## （2）軸の構想

### ① 道路及び公共交通の利便性を活かした「広域都市軸」の強化

- 道路交通の利便性や公共交通の利用促進を図り、暮らしやすさと持続可能な都市の発展を支える「広域都市軸」を強化します。

本市は、東北自動車道、北関東自動車道、国道50号、国道293号によって、周辺都市と連絡する広域的な道路交通の利便性を有しています。また、公共交通については、JR両毛線・東武佐野線と高速バスによる広域的なネットワークが形成されており、両毛広域都市圏において恵まれた交通環境にあります。

こうしたことから、単に道路網を中心とした軸を位置づけるだけでなく、公共交通を有機的に連携させた「広域都市軸」を東西、南北方向に形成し、暮らしやすさの向上と産業の振興を支えることにより、持続的な都市の発展を図ります。

### ② 市民生活や産業を支える「都市活力軸」の強化

- 公共交通への転換や、職住近接型の工業施設などの集積強化及び沿道型生活利便施設の立地を図り、本市の市民生活や産業を支える「都市活力軸」を強化します。

本市の都市活力は、南北の拠点間を結ぶ東武佐野線と、多様な産業や充実した幹線道路によって支えられており、更なる都市活力の向上を図ることが重要です。

特に、高齢者の増加が進行する中、都市機能への利便性を確保する上では、市内の移動を担う交通として、東武佐野線とバスの連携により公共交通ネットワークを維持・活用することが重要となっています。これらは、自動車への過度な依存から脱却し、環境にもやさしい都市づくりを効率的かつ効果的に実現するために有効です。

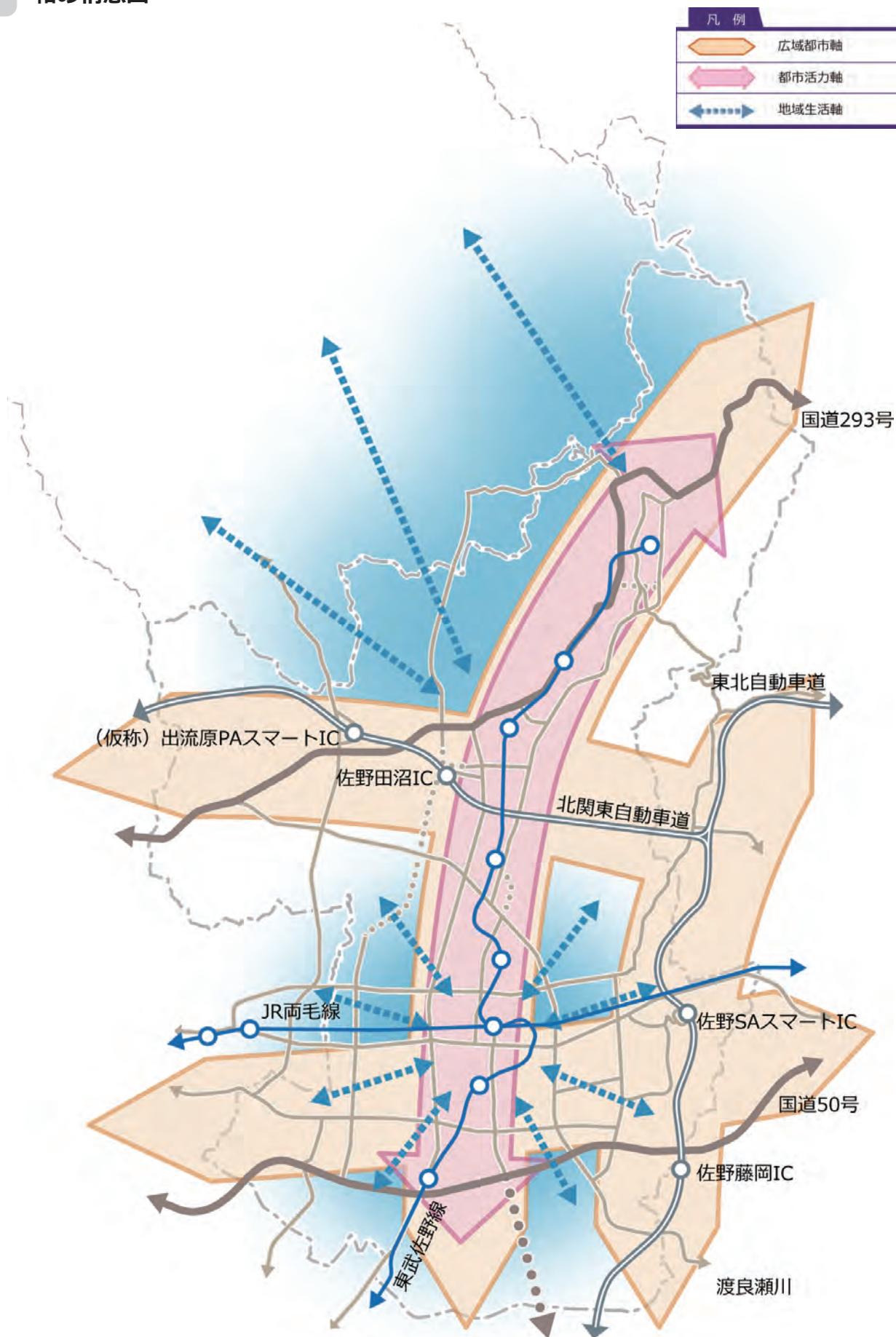
こうしたことから、拠点間を結ぶ公共交通と、産業地を結ぶ幹線道路を、本市の市民生活や産業を支える「都市活力軸」と位置づけ、自動車への過度な依存から公共交通への転換を図るとともに、周辺環境に十分配慮して、職住近接型工業施設の集積と市民生活のサービス向上に寄与する多様な沿道型生活利便施設の立地を図ります。

### ③ 広域都市軸や都市活力軸を補完する「地域生活軸」の確保

- 郊外部及び北部山間部などにおいて、地域生活に密着したバスや道路網の「地域生活軸」を確保します。

広域都市軸や都市活力軸を補完するものとして「地域生活軸」を位置づけ、郊外部及び中山間地域などの集落等と市街地の連携を確保するため、駅周辺の整備や交通結節機能の強化を図りながら、バスを中心とした軸の形成を推進します。

### 軸の構想図



### （3）拠点の構想

#### ① 中心拠点

○本市の持続的な発展を支えるため、様々な都市機能が集積し、それぞれが有機的に連携・支援され、利便性の高い交通環境を有する拠点として、「中心拠点」を形成します。

##### ● 中心市街地

佐野駅から佐野市駅周辺一帯は、公共公益施設の立地を活かし、公共交通の利便性の向上、都市機能の誘導や都市基盤施設の再整備、居住の誘導により、まちなか居住の推進と交流の活性化を図ります。

#### ② 地域拠点

○本市の持続的な発展を支えるため、都市機能が比較的集積し、公共交通により中心拠点と連携可能な利便性のある拠点として、3つの「地域拠点」を形成します。

##### ● 田沼市街地

田沼駅から田沼行政センター周辺一帯は、鉄道や行政・医療機能の立地を活かし、居住の誘導により、安心して生活できる環境の形成を図ります。

##### ● 葛生市街地

葛生駅から葛生行政センター周辺一帯は、鉄道や行政機能の立地を活かして居住を誘導するとともに、観光資源や歴史的資源などを保全、活用し、地域の中心としてふさわしい生活環境の形成と観光振興を図ります。

##### ● 佐野新都市

佐野新都市は、広域交通網の利便性や既存大学の立地を活かし、安全・安心な観光型広域商業機能や学術機能の強化を図ります。

#### ③ 生活拠点

○公共交通により、中心・地域拠点の都市機能が比較的容易に活用でき、良好な居住環境を創出する拠点として「生活拠点」を形成します。

公共交通により、中心・地域拠点と連携可能であり、かつ良好な居住環境が整備されている堀米駅周辺と吉水駅周辺は、駅を中心とした居住環境の形成を図ります。

#### ④ 産業振興拠点

○広域交通網の優位性を活かし、産業都市として発展させていくために「産業振興拠点」を形成します。

広域交通網を活かした計画的な産業用地の確保や、産業振興拠点である既存の工業・産業団地の機能強化を促進します。

（仮称）出流原 PA スマート IC 周辺については、首都圏広域地方計画における北関東新産業東西軸に含まれていることから、広域交通網の利便性を活かし、新たな産業の立地を図る拠点として位置づけます。

また、産業用地が不足しているため、農業との調整を図りながら、地域振興に資する新たな産業振興拠点の形成を図ります。

#### ⑤ 観光レクリエーション拠点

○広域を対象としたレクリエーション拠点を形成します。

みかも山公園、国指定史跡唐沢山城跡・唐沢山県立自然公園・国際クリケット場、磯山公園、佐野市運動公園を観光レクリエーション拠点と位置づけ、利用者等の利便性向上を図ります。

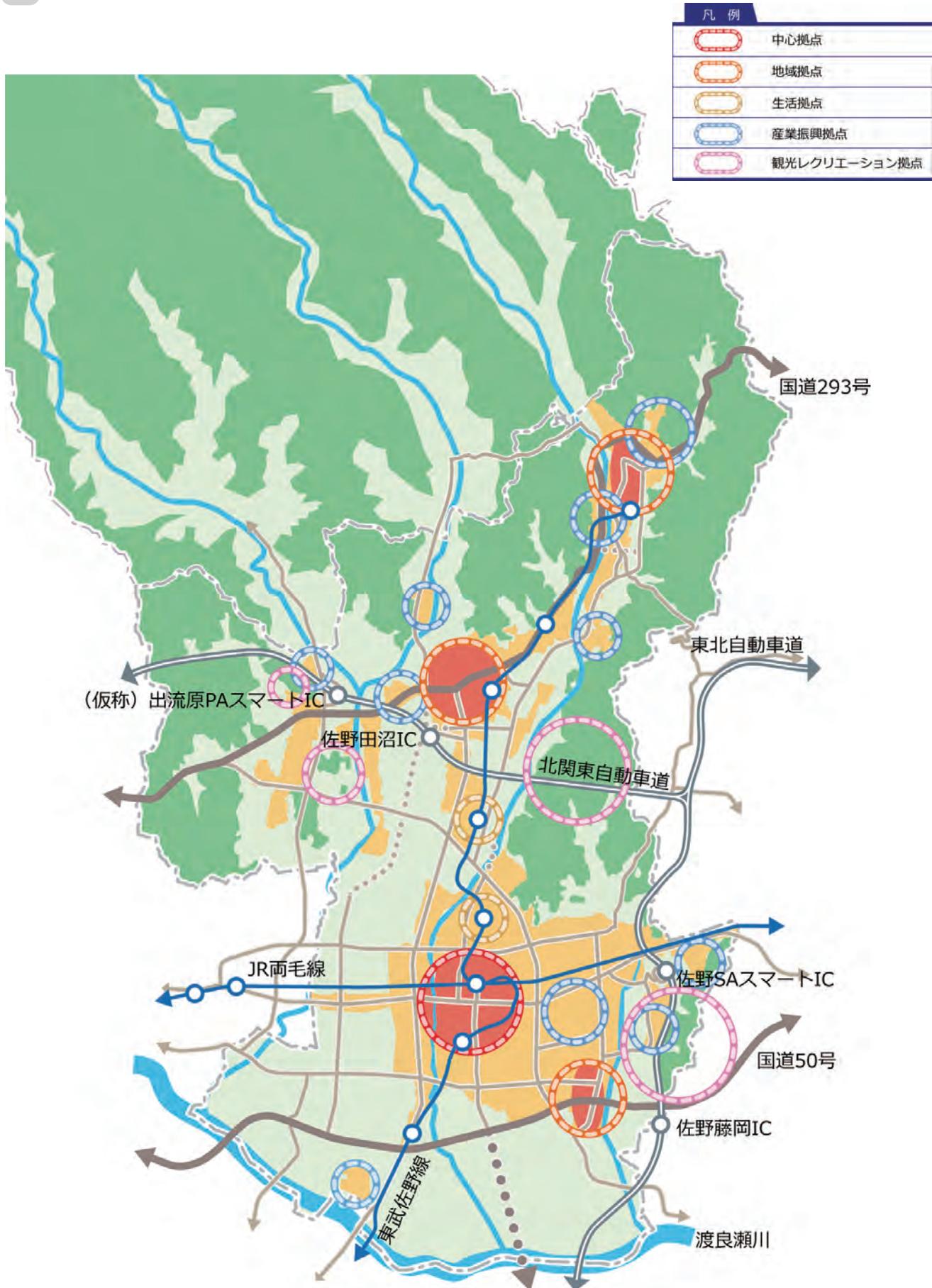


▲佐野インランドポート



▲唐沢山城跡（高石垣）

拠点の構想図



第1章

第2章

第3章

第4章

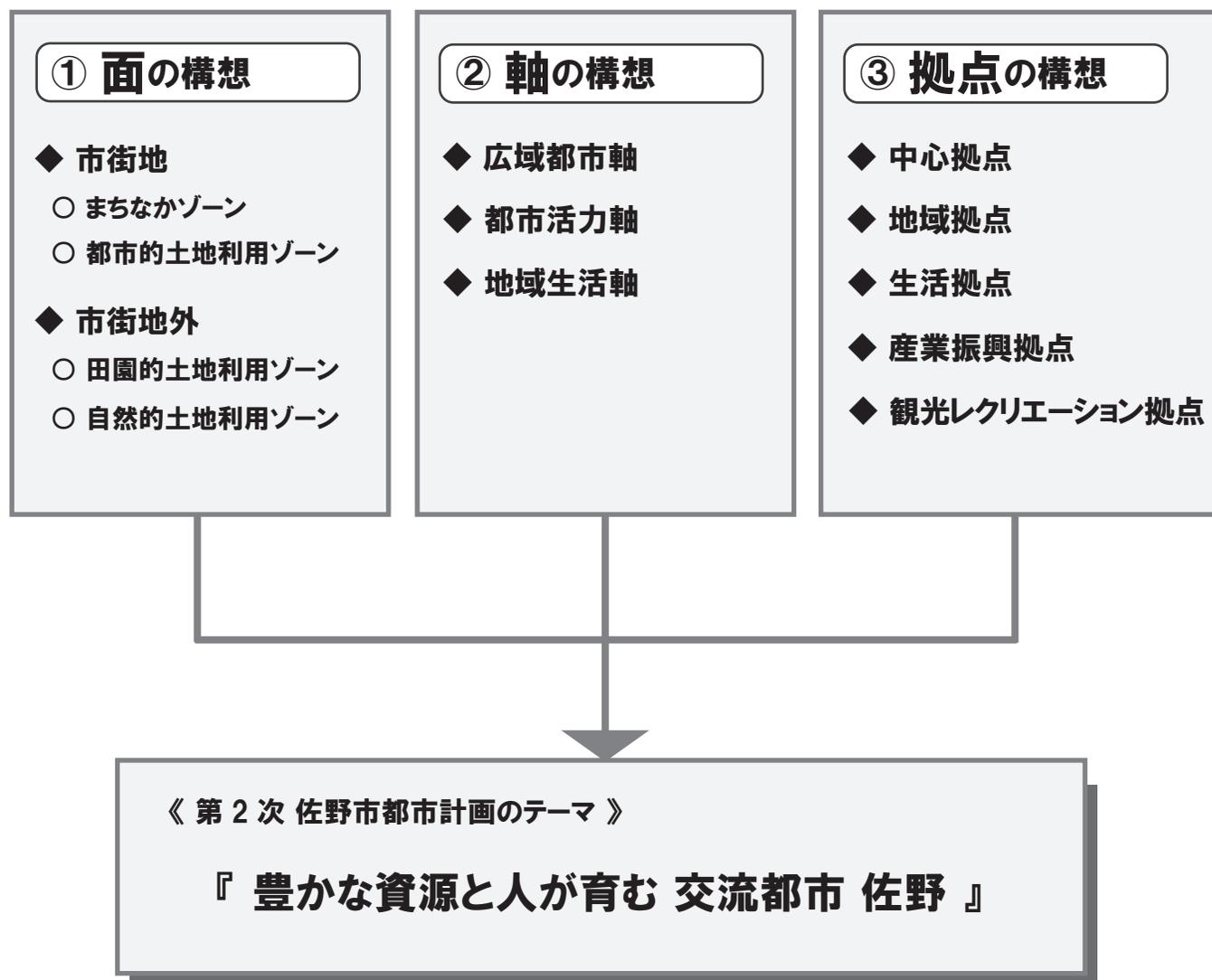
第5章

資料編

#### （4） 将来都市構造

本市の将来都市構造は、「面」、「軸」、「拠点」の3つの構想を一体的に推進することにより、『豊かな資源と人が育む 交流都市 佐野』の実現を目指します。

##### 将来都市構造の構成図



将来都市構造図

凡例			
	まちなかゾーン		中心拠点
	都市的土地利用ゾーン		地域拠点
	田園的土地利用ゾーン		生活拠点
	自然的土地利用ゾーン		産業振興拠点
	広域都市軸		観光レクリエーション拠点
	都市活力軸		都市計画区域
	地域生活軸		行政区域



- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 第5章
- 資料編